

# はつしん！新青森

青森県立青森西高等学校  
Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School

X  
青森大学 AOMORI UNIVERSITY

青森大学・青森西高等学校  
高大連携事業  
協力：JR東日本新青森駅  
〔青森学術文化振興財団助成事業〕



# 世界遺産登録を勧告

10モス

国の特別史跡・三内丸山遺跡（青森市）をはじめとする「北海道・北東北の縄文遺跡群」について、国連教育科学文化機関（ユネスコ）世界遺産委員会の諮問機関「イコモス」は、世界遺産一覧表への記載が適当と勧告しました。その結果が5月26日、ユネスコ世界遺産センターから文化庁に通知されました。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、北海道と青森県・秋田県・岩手県にある17遺跡で構成されます。文化庁ホームページによると、イコモスは同遺跡群について、約15,000年前にさかのぼる農耕以前における定住生活の在り方および先史時代の複雑な精神文化を示す点に、「顕著な普遍的価値」があると評価しました。

さらに、「先史時代における農耕を伴わない定住社会及び複雑な精神文化を示している」、「定住社会の発展段階やさまざまな環境変化への適応を示している」と

世界遺産登録への取り組みは、2005年に青森県がスタートさせました。2007年からは、枠組みが4道県に広がり、今年、世界遺産登録が実現する見通しとなりました。

## 紀行家が見た江戸時代後期の三内

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく⑬



「北海道・北東北の縄文遺跡群」を代表する、青森市の三内丸山遺跡（2021年5月28日撮影）

東北新幹線「はやぶさ」が新青森駅を出発すると、進行方向右手に三内靈園が見えてきます。そして左側には三内丸山遺跡、青森市街地を望めるのも束の間、新幹線はあつという間に八甲田トンネルへ飲み込まれます。今回は、前回紹介した江戸時代の紀行家菅江真登が、新青森駅のすぐ東側の石神神社で桜を眺めたあと、さらに歩を進めた三内村のお話しをしましよう。

そもそも、真澄は寛政8年(1796年)4月14日の早朝に「このあたりに名だたる三内の桜」を見ようと油川を出発します。遠近(おちこち)の山々村々の桜

ます。案内してくれた村長(むらおさ)は「名に負う三内の千本桜」と自慢気には話しますが、天明3、4年の凶作による飢饉(いわゆる「天明の大飢饉」のこと)で東日本で多くの死者を出した江戸時代最悪の飢饉)

મારી જીવનિ - ૧

JR 東日本は、7月1日（木）から9月30日（木）の間に運行する直特急を発表しました。新青森

GV-E400 系 = 写真 = 卷使用します。

「ヤンペーン」に合わせて、奥羽線と五能線を経由

み」、「五能線クレージングトレイン」を運行します（ともに弘前駅 - 秋田駅の列車もあります）。

また、青森駅と三厩駅を結ぶ津軽線については、2020年に続き、北側の磐田駅 - 三厩駅の間で、臨時列

©2021 MOTOOKUSHIBIKI



出雲ノ旅  
東北  
2021.4.1~9.30

〈ご自由にお持ち帰り下さい〉

ポスター等は許諾を得て使用しています

## 青森県立美術館

# 時代映す「ユーモアと祝祭」コレクション展 2021-2



青森県立美術館で9月5日(日)まで、2021年度の第2期コレクション展「ユーモアと祝祭」が開かれています。「コロナ禍も意識して、所蔵作品の中から、人の心を明るくする作品を選ぶ一方、1960~70年代を中心に、笑いで社会や政治を風刺し、鋭く問題を切っている作品群を選びました」と池田亨・美術企画課長は狙いを解説します。

明るい作品としては棟方志功の動物画などが並びます。テーマの効果か、動物たちや金魚ねぶたが、不可思議な笑みを浮かべているように感じられます。また、作中の人々の表情も皆、柔らかな笑顔に見えます。

## 三内丸山遺跡

### 「6本柱」長寿命化工事レポ

三内丸山遺跡のシンボルとして、「6本柱」の名で親しまれてきた大型掘立柱建物で、4月から6月初めにかけて、長寿命化対策工事の見学会が開かれました。本号は、5月22日の見学会のレポートをお届けします。日頃、目にすることのできない柱の頂部を見たり、遺跡を見下ろす景観を楽しんだり、貴重な機会になりました。

- ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆
- 「6本柱」の柱は高さ約15m、直径は約1mもあります。1996年、出土した柱穴と木柱を参考に、ロシアから輸入されたクリ材を使って復元されました。それから25年を経て、割れ目が入るなどの傷みが見られたため、長寿命化対策工事が行われることになりました。
- 三内丸山遺跡センターの文化財保護主事・木村恵理さん=写真右上=の案内で、シートに覆われた「6本柱」の足場を登っていくと、見慣れたはずの柱が次第に、



## Twitter



## 「さんまる」が遺跡を案内



## Facebook



## Instagram



とても近い生き物のように思われてきました。柱はあちこちに割れ目があり、特に頂部はえぐれた状態になっていたそうです。ところどころ、キツツキが開けたとみられる穴もあります(写真左・赤い矢印の部分)。これらを樹脂で補修し、違和感のないよう着色しています。

歴史的建造物の補修は国内各地で行われていますが、縄文時代の遺構を復元した施設の補修は、あまり例がないといいます。あいにくの雨模様でしたが、遠くにうつすらと、八甲田連峰を望めました(写真右下)。



## 割れ目を樹脂で補修 キソソキの六本柱

三内丸山遺跡のシンボルとして、「6本柱」の名で親しまれてきた大型掘立柱建物で、4月から6月初めにかけて、長寿命化対策工事の見学会が開かれました。本号は、5月22日の見学会のレポートをお届けします。日頃、目にすることのできない柱の頂部を見たり、遺跡を見下ろす景観を楽しんだり、貴重な機会になりました。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

「6本柱」の柱は高さ約15m、直径は約1mもあります。1996年、出土した柱穴と木柱を参考に、ロシアから輸入されたクリ材を使って復元されました。それから25年を経て、割れ目が入るなどの傷みが見られたため、長寿命化対策工事が行われることになりました。

三内丸山遺跡センターの文化財保護主事・木村恵理さん=写真右上=の案内で、シートに覆われた「6本柱」の足場を登っていくと、見慣れたはずの柱が次第に、

時代を切り取った作品では、豊島弘尚の油彩画「例えば嘲笑いの中で変容した頭部」(1966年=写真)が目を引きます。当時、急速に普及し影響力を拡大していたテレビモチーフに、無数の語句やさまざまな「ちの形」を埋め込んであります。1965年に描かれた中沢如洋の油彩画「観光独裁」は、旅行チームがもたらした状況や空気感を、皮肉っぽくカラフルに描いています。ほかに、臨時休館中の青森県立郷土館が所蔵する野村宏の油彩画「春の海秋の海図屏風」や松木満史の代表作「ラリュー又」、青森県内の5箇所の美術施設の連携プログラムによる建築関連の模型・映像作品も展示されています。

見学時間 9:00~18:00(入場は閉館の30分前まで)  
休館日 每月第4月曜日(祝日の場合は翌日)、12月30日~1月1日  
観覧料 一般410円(330円)/高校・大学生等200円(160円)/  
中学生以下無料  
※( )内は20名以上の団体料金  
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。  
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

TEL 038-0031 青森市三内字丸山1305  
TEL 017-766-6282 / FAX 017-766-2365  
URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>

お問い合わせ



お問い合わせ



お問い合わせ



お問い合わせ



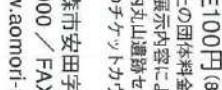
お問い合わせ



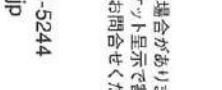
お問い合わせ



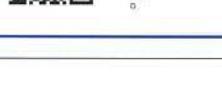
お問い合わせ



お問い合わせ



お問い合わせ



新青森駅 ⇔ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」(東口) 約20分・300円、タクシー(南口) 約10分・300円、タクシー(南口) 約12分・1,200円前後、徒歩約30分  
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」(東口) 約10分・1,000円前後、徒歩約40分

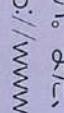
下さい。また、PDF版を青森西高校ホームページ(<http://www.aomorinishi-hs.ed.jp/>)に掲載しています。いずれも、右側にQRコードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・櫛引素夫研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ

合  
わ  
せ

お  
問い合わせ

**f** Facebook ページ  
**I** Instagram アカウント



<ネット情報>  
FacebookページとInstagramアカウントを開設し、  
独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ